

テーマ 8 : 地域の医療 (3 件)

8-1 【秋田市、70代】

「遠隔地からの入院で付き添う家族のための宿泊施設の実現を」

秋田県の人口減少に伴い、二次医療圏の広域化が示されました。これは医療体制の縮小化、により地域医療格差が生じる事態となり、県民の理解は、難しいと感じています。地域医療とは、何処に住んでいても同じ医療サービスが受けられることが一番の安心と考えます

任意団体「あきたファミリーハウス、」は、秋田市内の小児科へ入院、通院、される遠隔地家族のための、安価な宿泊施設の提供を続けて 11 年目を迎えています。活動の様子がこの度、7 月 4 日付秋田魁に大きく報道され、驚くほどの大きな反響を呼びその影響は、ホームページへのアクセス、寄付金へと反映されました。関心の高さが伺えます。

家族の誰かが病気になると、それも長期にもなると経済的、肉体的、精神的にと日々追い込まれていく様子を身近で見てきました。

宿泊施設の提供は、困難な状況下であっても病院から離れ普通の日常に心と身体を癒し自分を取り戻す、第 2 の我が家とも言われています

子ども最優先で広報しておりますが、どのような経緯で来るのか分かりませんが大人の家族からも連絡が入ります。事情に配慮し空いている限りは、ご利用いただきました。10 年間の利用者 175 名宿泊日数 1920 日となっており必要とされたことが実証されました。各地元選出の議員の皆様へ、ご自分の地元の方が中央に緊急搬送されて来た時に、付き添う家族がどのような状況になっているのか知る由もないかと思いますが、本当に大変で今直ぐにでも支援が必要です。地域医療の一環として、大人も子どもも関係なく遠隔地からの入院、通院する家族のために病院近くに、安心して利用できる滞在宿泊施設の設置を強く要望します。あきたファミリーハウスの運営も県民の皆様の善意に支えられここまで来ましたがこれから先を考えますと、財政難からいつかは、破綻するとの危機感は、いつも持ち合わせています。次なる方向性を見つけ繋がるまでは、終われない想いもあります

全国の例を見ますと病院、行政、企業、民間団体、が様々な形で協働し運営に当たっています。多くの方の関心を集め実現可能にするための力添えを宜しくお願いします。

8-2 【秋田市、30代】

オンライン診療の拡大をしてみてもは。たとえば、救急車で移動が必要かどうかをビデオ通話で一次判定し、必要と判断した場合でも到着した救急隊員と医者とでオンライン診療のやり取りをして、タクシー等でも大丈夫であれば、それで移動してもらうなど。テーマ 3 にもつながりますが、緊急性の低い場合に自動運転による準医療車両を導入して移動す

る方法もよいかもかもしれません。

8-3 【大仙市、30代】

突然メールを拝送することをお許してください。

いつもお世話になっております。ありがとうございます。

早速ですが、的外れでしたらすみませんが、二次医療圏の意味を秋田県民の何%が知っているか知りたいし、限られた人だけでものごとを決めるより、説明してわかる人が増えて自分では考えられないようなことを思いついたりするので中学生でもわかりやすい言葉を使ってほしいです。

患者数を予想して、県民や利用者の減少したので適正化のために二次医療圏とか他の医療を減らすのならわかりますが、日本全体で人が減っているのに、医師と漁師をできる人など一つの職業できるだけでなく何でもできるように、毎日または毎月、あらかじめ用意して公表したり販売している3つの問題集から1つの問題集を出しますと言って試験を受けて貰ったり、10年間医師をして問題ないならそのまま医師の資格をとれたりすると良いかなと思いました。

以上、秋田県の皆さんの増々のご活躍ご健勝お祈り申し上げます。